

大項目 2 教育研究組織

(目標)

大学の理念・目的を踏まえ、適切な学部・研究科等の教育研究組織を設置し、教職員数の確保、施設・設備を配備する。

A群 大学の学部・学科・大学院研究科・研究所などの組織の教育研究組織としての適切性、妥当性

[現状把握]

武蔵野美術大学は、帝国美術学校として発足した後、武蔵野美術短期大学を昭和 32 (1957) 年に開設し、武蔵野美術大学を昭和 37 (1962) 年に開設した。その後、大学院修士課程を昭和 48 (1973) 年に、また博士後期課程を平成 16 (2004) 年に開設する一方で、平成 14 (2002) 年には造形学部通信教育課程を開設した。

平成 18 (2006) 年 5 月 1 日現在、11 学科からなる造形学部、4 学科からなる通信教育課程、2 専攻からなる修士課程、そして博士後期課程を有する美術大学となっている。

教育研究組織としては、昭和 38 (1963) 年にヨーロッパの主要美術大学とともにパリに国際芸術都市 (パリ) に創立会員として参加し、ヨーロッパの主要 4 美術大学と学生の交換を含む交流をはじめ、現在アジアおよび南北アメリカ、ヨーロッパの多くの大学との間で交流をおこなうなど、国際教育の支援を積極的にすすめてきた。

また、昭和 42 (1967) 年には、図書資料と美術資料の両方を有機的に関係づけ、教育研究のために活用するために美術資料図書館というユニークなライブラリーを開館した。

[点検評価]

本学は主要な美術大学であるべく、教育研究組織を整備しながら、さまざまな活動を展開してきた。

- (1) 国際芸術都市の維持をはじめ、欧米の主要な美術大学との交流を通じた国際教育の支援。これには海外から訪問教授として招聘した教授による授業も含まれる。
- (2) 美術資料、図書資料、博物資料 (民俗資料) からなる美術資料図書館による資料整備、このなかで民俗資料については昭和 17 (2005) 年に 13 号館が建設され、そのなかに集約されることになった。また映像資料のためのイメージライブラリーの設置。
- (3) 卒業制作の東京の美術大学共催による五美大展、若手の芸術家のためのギャラリー α M 展、ブルーノ・タウト、ウルム、フランツ・チゼック等 20 世紀を代表する造形活動に関する大規模な企画展示、等の展示活動。
- (4) 早稲田大学との授業の交換、近隣の 5 大学との間での授業や情報の交換を目的とした多摩アカデミックコンソーシアム等、他大学との交流を通じた教育支援。
- (5) 通信教育課程用教科書、MAU ライブラリーとして大学の教育研究成果を発信する出版活動。

(6)2004 年には産業界と大学との共同研究を促進するための研究支援センターが開設された。

(7)教育研究成果の公表媒体としての研究紀要と公開講座と地域フォーラム等のエクステンション活動。

本学の教育研究組織は、学部から大学院博士課程までの垂直構造と、学外産業界や国内の大学・海外の大学と協同し教育研究の効果を高めるための開かれた水平構造をもつにいったといえる。

単科大学という限られた人数や規模を配慮して、これらの組織で教育研究を展開できるような効率的な運用が探られる必要がある。

[改善・改革方策]

学部教育に主体がある本学においては、より高度な水準で専門的研究を進めるために研究所の設置が以前から求められている。美術大学の教育研究に相応しい研究所の在り方を探り、それを実現することが将来的な課題であろう。